



京都市立美術工芸高等学校

令和8年度
入学者向け
学校案内

KYOTO CITY
SENIOR HIGH SCHOOL OF ART
GENERAL INFORMATION

その「わくわく」が、
ありたい未来をソウゾウする。



「ゆめひつじ」 -2025.1

Higuchi Kirato (彫刻専攻 令和6年度卒業生)
樹脂・アクリル絵具

この作品は多くの大人や子供がいる公共の場に置くことを想定し、作品に触れることで自由な夢を見てもらいたいと思い制作しました。小さい頃に、ブロックのおもちゃで自分だけの街を作るのが楽しくて羊の頭の上のジオラマは自由に建物や小道具を置き自由な街を作れるようにしました。羊が寝ていて、羊の頭の中を表現し、夢の中ならなんでもできることを表現したくて頭の上に置くものは自由に動かせるようにしました。羊にした理由は、柔らかい印象と夢に関係する動物としてイメージがあったので羊にしました。水兵さんの服を着ているのは、子供服をイメージしていたり、テーマが海モチーフなものが多かったりするからです。羊がこの服を着ていたら面白いかなと思い着せました。全体的な色味は絵本のような優しい色にしたり、でもどこかおもちゃのような明るい色も合わせて使っています。

2026



学校教育理念

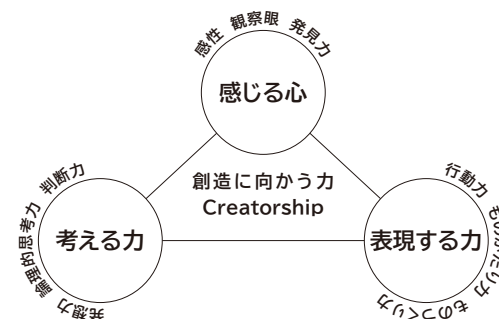
自由快活な校風のもとで 多様性を尊重し共に高め合い 美の精神をもって
広く社会に貢献できる 高い理想をもった創造性豊かな自立した 青年を育成する

この理念のもとに、特色ある教育活動を通して、一人ひとりの能力・適性を伸ばし、
自己実現を図れるよう以下のことを目標とする。

- ・多様なものごとに触れ美しさや本質を見出す「感じる心」を豊かにする
- ・主体的に取り組み広い視野で柔軟に深く思考できる「考える力」を伸ばす
- ・幅広い美術の知識や技能を学び自分の思いや考えを形にする「表現する力」を高める

育成する資質・能力

教育目標を達成するために、
生徒たちに対して右図のような
資質・能力を育成していく。



ご挨拶

美術工芸の専門高校である本校は、明治13年(1880)京都御苑内に画学校として開校以来、美術学校、美術工芸学校、日吉ヶ丘高校美術課程・美術工芸課程、銅駝美術工芸高校を経て、令和5年4月に現校名で移転開校いたしました。令和7年7月に創立145年目を迎える伝統校です。

本校の教育理念は「自由快活な校風のもとで 多様性を尊重し共に高め合い 美の精神をもって 広く社会に貢献できる 高い理想をもった創造性豊かな自立した 青年を育成する」です。本校には他校にない強みがあります。多様なものごとに触れ美しさや本質を見出し、主体的に取り組み広い視野で柔軟に深く思考し、幅広い美術の知識や技能を学び自分の思いや考えを形にすることができます。

「その“わくわく”が、ありたい未来をソウゾウする」をスクールメッセージとして掲げ、「美」を通して様々な学びに横断的に取り組む「BIKO steAm」を意識した教育活動によって多様な学びへの意欲・関心を高め、ソウゾウ（想像・創造）に向かう力を育成しています。

あなたの思い描くイメージをカタチあるものにクリエイトする。想像から創造へ。「無」から「有」を創り出すことができる本校（美工）で学んでみませんか。美工での様々な学びは、みなさんの感性を磨く大きな機会となるはずです。美工で“ありたい未来”を創り出しましょう。

校長 大窪 英行

学校沿革

140年を超える歴史を持つ「美工」。文化と伝統を大切にしてきた京都であるからこそ、日本でも先駆けて誕生し、現在まで市民をはじめ多くの方に温かく支えられてきました。

明治13年 1880年 7月1日、京都御苑内准后御殿を仮校舎として京都府画学校開校、太政大臣三条実美公「日本最初画学校」と命名。東宗(大和絵)・西宗(油絵)・南宗(文人画)・北宗(狩野、雪舟派)の4科を設置、修行年限3年で発足。

明治22年 1889年 京都市に移管、京都市画学校となる。

明治24年 1891年 京都市美術学校と改称。絵画科・工芸図案科を設置。

明治27年 1894年 京都市美術工芸学校と改称。彫刻科を設置。

明治28年 1895年 漆工科を設置。

明治34年 1901年 京都市立美術工芸学校と改称。絵画・図案・彫刻・描金の4科となり、修業年限を4年とする。

明治44年 1911年 京都市立絵画専門学校（現 京都市立芸術大学美術学部）を併設。

大正15年 1925年 東山区今熊野日吉町の新校舎に絵画・図案・彫刻・漆工の4科で移転。

昭和23年 1948年 京都市立美術高等学校と改称。建築科を洛陽高等学校へ移管、絵画科の中に西洋画科を設置。

昭和24年 1949年 京都市立日吉ヶ丘高等学校美術課程となる。日本画・西洋画・図案・彫刻・漆工の5科を設置。

昭和26年 1951年 陶芸科を設置、6科となる。

昭和27年 1952年 漆工科を漆芸科と改称、服飾科を設置、7科となる。

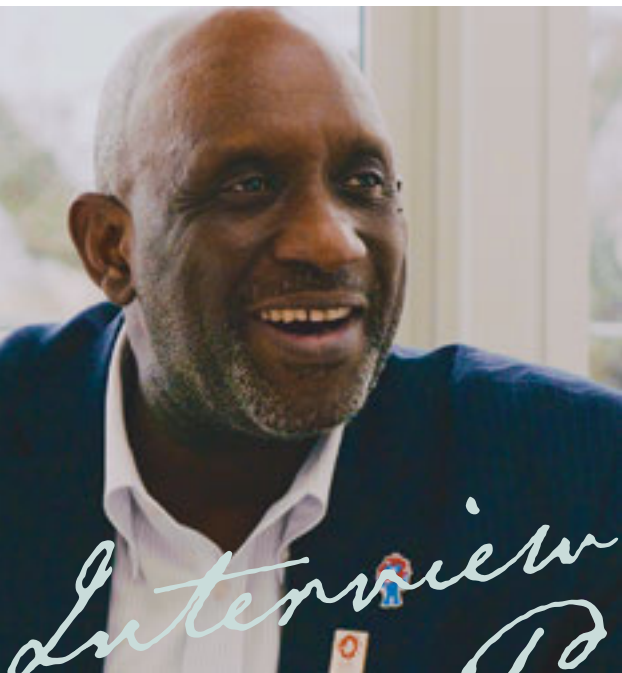
昭和55年 1980年 京都市立銅駝美術工芸高等学校を設置、旧銅駝中学校跡地に移転。実習棟竣工。染織科を設置し8科、定員110名となる。

平成9年 1997年 4科で科名変更、洋画科・デザイン科・ファッションアート科・テキスタイルアート科となる。

平成16年 2004年 8科を統合して美術工芸科とし、各科は2年次より選択する8専攻となる。

令和5年 2023年 京都市立美術工芸高等学校と改称。京都駅東部地区に新築移転。

本校出身の文化勲章受賞者 竹内栖鳳・西山翠嶂・上村松園・上村松篁・堂本印象・福田平八郎・加山又造・草間彌生



学生がインタビュー

ウスビ・サコさんに聞く 「美術を志す」ということ

ウスビ・サコさんは、マリ共和国出身の建築学者で、アフリカ出身者として日本で初めて大学の学長を就任されました。多文化共生や異文化理解の重要性を発信し続け、日本社会に新たな視点をもたらしています。そんなウスビ・サコさんは、美術・芸術をどんな風に捉えているのか、これから美術を志す中学生に伝えたいことは何か。美工生がインタビューしました。

ウスビ・サコ

京都精華大学 元学長 / 同大 名誉教授 / 東京都立大学法人 理事 / 東京都立大学 特任教授

美術的な発想こそが、社会を豊かにしていくために必要なですね。

Q.美術が社会に与える役割や影響とは？

A.美術とは、発信する側は自分の内面を表現し、受け取る側はそれを共感したり、響き合ったりしながら受け止める。そういう関係の中で成り立つものなんです。技術とは違って、美術は何もないところから作り出すもの。だからこそ、発想そのものが特別で、美術の持つ価値はそこにあるんですね。

今の社会って、どんどん合理化されて、企画や構造のもとで作られるものが多い。でも、美術はそういう枠には収まらず、人間の本心や、自然に対する受け止め方を表現するものなんです。

だから、美術的な発想こそが、社会を豊かにして

いくために必要なんですよ。論理的に解決できない問題も多い中で、クリエイティビティが求められる場面はたくさんある。そういう課題があるからこそ、美術的な視点を持った人が、新しい価値を生み出していくのだと思います。

また今までの歴史を見ても、社会の現象を表現によって解決しようとした作品がたくさんあるし、普段の生活では気づかない美しさを描き出すこともある。だから、社会の発展には美術が影響を与えてきたし、逆に美術の発展にも社会の動きが関わっている。美術と社会は常に影響し合っているものだと思います。

これからの社会では、新しい価値を生み出す発想が求められている。

と思うんです。

美術を学んでいる人って、「この枠にはまらななきゃいけない」という感覚が薄いんですよね。だからこそ、新しい価値を生み出すことができるし、これからの社会ではそういう発想がすぐ求められていると思うんです。

実際、最近の企業も、「今までにない視点を持った人」を求めていますよね。決められたことをただこなすだけの人ではなく、課題を見つけて、新しい解決策を考えられる人。そういう力を持っているのが、美術を学んでいる皆さんたちなんですよ。

好きを掘り下げると、世界は無限に広がる。

Q.将来何になるかが決まっていなくても、美術が好きというだけで、美術の道に進もうとすることについてどう思いますか？

A.「絵が好き」という気持ち、それだけで十分な理由になると思います。大事なのは、その「好き」を掘り下げること。例えば、どんな絵が好きなのか、何に惹かれるのか。そうやって考えていくと、見えてくる世界は無限に広がるんです。逆に、「何になりたいか」を最初から決めてしまうと、可能性を狭めてしまうこともある。

人生は何事もすべて「経由地」ですよ。何かを目指して、それになったら終わりではなくて、その

経験を経由して次の道がある。美術を学んだからといって、必ずしも美術の仕事に就くとは限らない。大学で別の分野に進むかもしれないし、仕事をする中で美術が生きる場面が出てくるかもしれない。でも、どんな道を選んでも、その時々で掘り下げたことは次につながるんです。

仕事はゴールじゃなくて手段。大事なのは、自分の喜びをどう追求していくか。「好き」という気持ちは大きな原動力になるし、それがあからこそ続けられる。今すぐ答えが出なくても、美術を続けながら、自分の経由地を増やしていけば、きっと何かが見えてくると思いますよ。



Q.美術・芸術を志す中学生や保護者の方へメッセージをお願いします。

A.美術は、生き方の一つだと思います。美術を学ぶことは、単に技術を身につけるだけでなく、感覚を磨くことでもある。今の社会は、何でも構造的・機能的・合理的に作ろうとする傾向がありますよね。でも、そういう考え方だけでは、どこかで行き詰まってしまう。そんなときに役立つのが、美術的思考なんです。

美術的思考というのは、社会の新しい在り方を教えてくれるものだと思うんですよね。美術と関わることで、新しい生き方を見つけることができるんです。

だから、美術を学ぶことを「将来のためになるのか」とか「仕事に直結するのか」だけで考えるんじゃなくて、美術が持つ価値に気づいてもらえたらなと思います。ぜひ、いろんな人に美術の大切さを知ってもらいたいです。

美術と関わることで、新しい生き方を見つけることができるんです。

◆インタビューを終えて

ウスビ・サコさんとお話を通じて、美術を学ぶことが社会において柔軟な発想や適応力を育む重要な役割を持つことを再認識しました。また、美術を学ぶ上で悩む、個性や自分らしさについても、制作過程で生まれる工夫や思いこそが、唯一無二の価値を生むという考えに励まされました。美術は「自分を語ること」「見つめること」が大切。他人との違いを恐れず、それを楽しむ姿勢を持ちたいです。

今後は美術を通してさらに自己理解を深め、より広い視野を持って学びを続けていきたいと思っています。

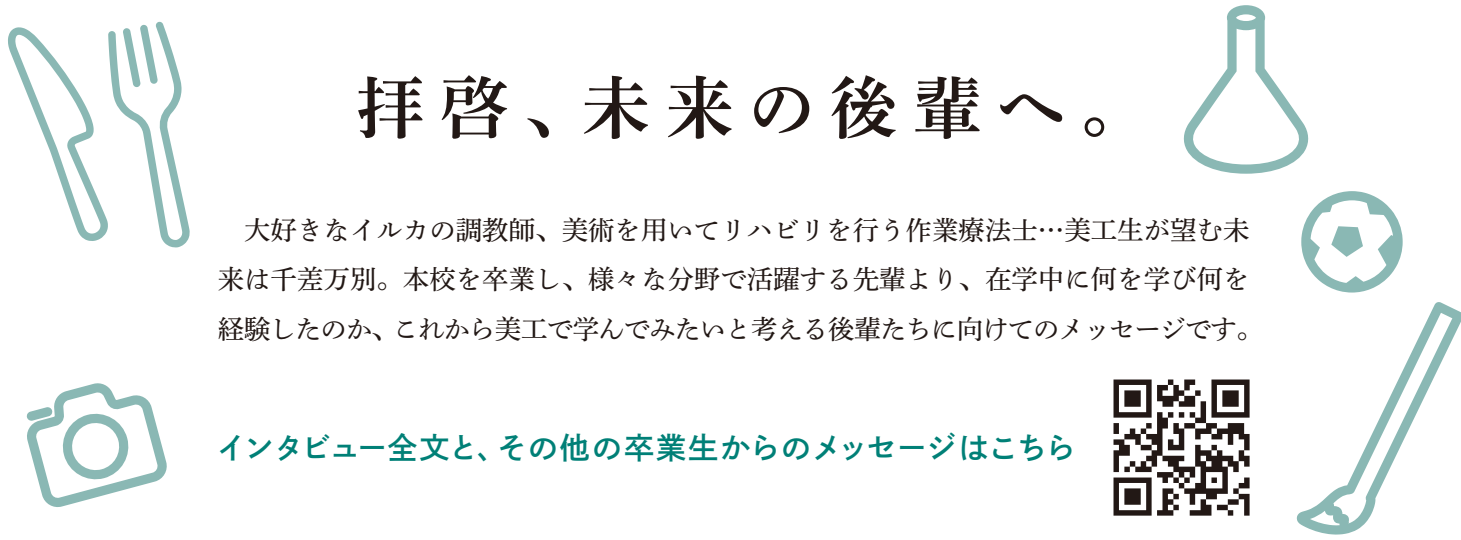
3年生 川島 夏凜さん 野々内 薫さん 佐々木 杜子さん 寺田 希子さん



Q.私たちのような、高校生から美術を学ぶ意味や大切さを教えていただけますか。

A.今の社会はどんどん合理的になって、型にはまった人材を育てようとしているんですね。大学でも、「こういう能力を持った人を育てます」というカリキュラムが決まっていて、それに合わせて教育が行われている。でもそれって、言ってしまうと「工場で作る製品」と変わらないと思うんです。

本来、教育ってそんな単純なものじゃないですよ。教育とは畑のようなもの。一人ひとりが違う考え方を持っていて、それを伸ばしていくのが教育の本質。美術を学ぶことの価値は、まさにそこにある



拝啓、未来の後輩へ。

大好きなイルカの調教師、美術を用いてリハビリを行う作業療法士…美工生が望む未来は千差万別。本校を卒業し、様々な分野で活躍する先輩より、在学中に何を学び何を経験したのか、これから美工で学んでみたいと考える後輩たちに向けてのメッセージです。

インタビュー全文と、その他の卒業生からのメッセージはこちら



大学教員
(花園大学)
平成19年度卒業
彫刻専攻
芦田 風馬



美術工芸高校で出会った彫刻と教育に向き合い続け、現在は大学で幼児の造形活動に関する授業を担当し、幼稚園教諭や保育士を目指す学生を指導しています。彫刻制作も続けながら、「0から生み出すことの難しさと尊さ」と「自分を表現する喜び」が今の自分を支えていると実感しています。美術は、感性を育み、挑戦する

力や主体性を引き出す力があります。私自身、三児の親として日々追われながらも、子どもたちや未来の保育者たちに表現の大切さを伝えたいという思いで活動しています。多様性が重視される時代だからこそ、「好き」と言える心と、それを表現できる力を育む場として、美術高校の価値を改めて感じています。



中学の頃から美術に関わる仕事に就きたいと思っていましたが、具体的な道は決まっていませんでした。そんな中、美工を知り、挑戦する気持ちで受検しました。美工では基礎から専門的な技術まで学び、自分のやりたいこと定める貴重な経験ができました。大学・専門学校を経て九谷焼の絵付け師として就職し、現在は作家



として活動しており、美工の陶芸専攻で培った基礎が支えになっています。表現するためには、アイデアだけでなく確かな技術や知識が必要です。進路に悩むことは、自分のやりたいことを探す大切な過程だと思います。挑戦することで得られる経験は、必ずどこかで生きてきます。美工で自分の可能性を広げてみてほしいです。

九谷焼絵付け
平成23年度卒業
陶芸専攻
太田 恵利香



デザイナー、
イラストレーター
平成31年度卒業
デザイン専攻
深谷 はるの



幼い頃からものづくりや誰かを喜ばせることが好きだった私は、迷わず美工に進学しました。3年間、さまざまな表現に触れる中で「デザイン」の魅力に惹かれ、専攻を決定。卒業後は専門学校を経て、現在はグラフィックやWEBの仕事に携わっています。学生時代に絵本を制作した経験が、今も続けているイラスト活動の原点と



なり、デザインと自己表現の両立に繋がっています。美工で学んだ「手を動かしながら考える力」や「思いやり」は、社会でも活かしています。ものづくりが好きな中学生のみなさん、自分の「好き」と真剣に向き合える美工で、表現の可能性を広げてください。

グラデュエーション・ポリシー(育成を目指す資質・能力に関する方針)

- ◆柔軟に粘り強く挑戦し続けられる心を育み、作品制作や言語表現を中心とした多様な表現活動や他者との関わりの中で、新たな自分や価値を創造していく意欲と能力を有する。
- ◆美術領域の専門性や汎用的な知識・技能を活用し、将来、文化芸術の創造・発展に寄与し、世界と対話的に関わっていく態度と能力を有する。

データで見る進路

*過年度卒業生を含む *令和7年度3月時点

国公立4年制大学合格者数

大学名	令和5年3月	令和6年3月	令和7年3月
京都市立芸術大学	7	17	14
金沢美術工芸大学	4	3	5
富山大学	3	2	2
静岡文化芸術大学	1	1	
愛知県立芸術大学	3	2	2
京都教育大学	2	1	2
奈良教育大学	1		
広島市立大学	3	3	1
尾道市立大学	1		
名桜大学	1		
沖縄県立芸術大学	1		3
岡山県立大学	2		
静岡大学			1
国公立大学合計	29	29	30

ほとんどの生徒は美術系上級学校を志望しますが、看護系や教育系、文学・歴史系など、美術系以外の学部へと進学している生徒もいます。この方面への進学については教育課程上、生徒自身で努力し学ぶ必要があり、進む道を定めた美工生の行動力の強さを感じるところです。

私立4年制大学合格者数

大学名	令和5年3月	令和6年3月	令和7年3月
武蔵野美術大学	1	2	1
多摩美術大学		2	1
成安造形大学	11	12	12
京都精華大学	7	18	21
京都芸術大学 (旧 京都造形芸術大学)	3	9	11
京都美術工芸大学	2	4	2
嵯峨美術大学	8	10	12
京都先端科学大学	2		2
佛教大学	1		
大谷大学		1	1
大正大学	1		
京都女子大学	1		
大阪芸術大学	3	3	3
大阪成蹊大学	1		
立命館大学		3	1
東京工芸大学			1
東京造形大学			1
龍谷大学			2
京都文教大学		2	
京都産業大学		1	
甲南大学		1	
私立大学合計	41	67	77

自分の人生をデザインする力を育む キャリアプロデュース CAREER PRODUCE

美工では、生徒が「美の精神をもって広く社会に貢献できる」ようになるために、キャリア教育に力を入れています。美工生が好きな「美術」を社会でどのように生かしていくのか、そのためには何を学び、どのような道に進めば良いのか。3年間の中で、生徒自身が考え、自分でキャリアをデザインすることのできる力を育むための仕組み、それが「CAREER PRODUCE」です。



自分自身を知り、目標を見つける

キャリアについて知る

各学年の年度当初に、「キャリア」の言葉の定義を確認するために、スタートアップ研修とキャリアガイダンスを行います。また、目標とする姿をイメージするため、卒業生や様々な分野の専門家を招き進路講演会を行っています。



ポートフォリオ制作

ポートフォリオ制作を通して3年間のキャリア形成の流れを見える化し、PDCAサイクルの確認を行い、蓄積しています。美工生の強みを生かして、描いたり、撮影したり、作ったりしたものを記録します。

世界や社会のつながりの中で、自分を育てる

海外での学習・交流

代表生徒を選出し海外へ派遣する美術研修を実施しています。そのひとつとして京都パレスライオンズクラブ様から研修費用の援助をいただき、ヨーロッパに派遣。また、ボストンの芸術高校との交流も行っています。



地域や社会との連携

美術専門高校の特性や京都の強みを活かし、地域や学校外の方々と連携による取組を年間50プログラム以上行っています。あらゆる課題について自分ごととして学ぶ場となるように、生徒も企画運営に参加します。

変わりゆく技術を学ぶ

インターネットを通して刻々と変化する世界中の情報を活用するには、情報があくまでも参考の1つに過ぎないことを十分に認識し、最後は自分で判断する能力が必要です。本校では様々なICT機器や新たな情報技術である生成AIを活用し、学習の基盤となる「情報活用能力」の育成に力を入れています。懸念やリスクに対策を講じながら、適切な活用に向けたリテラシーの向上、どのように学びに活かしていくかという視点、近い将来使いこなすための力を意識的に育てていきます。



「美の視点」が全ての学びをつなぐ

ビ コ ウ ス チ ーム

BIKO steAm

社会へと発信していくためには、その基盤として十分な知識や技術が必要となります。
BIKO steAm は、「全ての学びを美術[ART]でつなぐ」をキーワードに、各教科等の連携を深めることで、インプットの質を高め感性を刺激します。生徒の思考を点から線、線から面へと発展させることで、多様でイノベティブな表現の可能性を生み出すことを目指します。



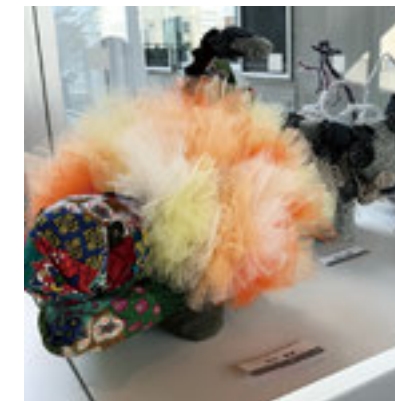
カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

- ◆将来の予測困難な社会において、「美」の持つ力、役割、可能性を深く幅広く学び、生徒の持つ創造への意欲の高揚につながる取組を実践する。
- ◆京都の強みを活かした学校内外の様々なつながりの中での協働的な学びを実践する。
- ◆表現活動の基盤となる幅広い教養や他者に伝える力を培い、創造的な発想力や思考力、判断力を養うため、教科・科目や専攻の境界を越えた横断的な学びを実践する。
- ◆個人の個性と可能性に丁寧に関わり、自己目標の実現に向けた生徒の主体的な学びを支援する。



三角比の導入 角度とは？比とは？

私たちは視界に入ってきた物の角度をどのように認識しているのでしょうか？ 指定された角度の直線を引くことや長さの比をとることを通じて三角比の概念を導入しながら、「実物の形を画面に再現するとはどういうことか」を考えます。



BIKO ザウルス 針金ワークと素材研究

生物的視点（恐竜の骨格）、デザインの視点（キャラクターデザイン）、彫刻的視点（立体構成）をふまえ、金属の知識をもとに思い描いた形を作るために必要な素材を化学的な見方で分析し、適切に選ぶための知識を身につけます。



美工手帖 批評文にチャレンジ！

美工作品展の出品作品を題材に、授業で学んだ「論理的・批判的思考」「言語化」を用いて、批評文を作成します。作品の見た目だけでなく、作者・作品・社会の関係性について分析し論じることによって、「好き・嫌い」ではない軸を自分の中に作り出します。



探究活動

美工では積極的に、教員や仲間と様々な対話・グループ活動を行い、自分の考えを他者に伝えるための言語能力の育成に力を入れています。一つの問題を多様な視点から考察することができる力を身につけるには、「言語活動」と「教養」が重要です。ここでいう「言語活動」とは、「自分たちの考えを深めるために言葉で明確にする力」と「それを他者に言葉で表現する力」のことを指します。また、「教養」とは、普通教科で学習する知識に加えて、自分の身の回りの問題や社会で起こっている問題に対する「広い視野」のことを指します。学校内外の支援・助言を求めながら学習し、自分たちの思考を具体的に表現することを目指します。

3年間の流れ

基礎から演習へ / コース選択

普通教科でも美術教科でも、まずは基礎をしっかりと学んだ上で、発展・応用するための演習を行っています。2年次の終わりには自身の進路実現に向け、大学入学共通テストを用いて進学を目指すアートパイオニアコースか、より幅広い実技力を伸ばしていくアートフロンティアコースかのどちらかを選択します。

1年

前期	現代の国語(2)	言語文化(3)	公共(2)	数学Ⅰ(3)	地学基礎(1)	化学基礎(2)	体育(2)	保健(1)	英語コミュニケーションⅠ(3)	論理・表現Ⅰ(2)	情報Ⅰ(2)	造形表現Ⅳ(4) *1	表現基礎Ⅰ(4) *3	探究Ⅰ(2)	HR(1)
後期												造形表現Ⅵ(6) *1	表現基礎Ⅰ(2) *3		

表現基礎Ⅰ

素描・色彩・立体などの基礎的な課題に取り組み、美術に関する知識を身につけ、感性・思考力・表現力を伸ばします。取組全般において、自ら考え、主体的・能動的に表現活動に向かうことや、創作を楽しみ、大切にすることを育むことを目指しています。



2年

通期	文学・国語(2)	古典探究(2)	歴史総合(2)	倫理(2)	数学Ⅱ(2)	地学基礎(1)	生物基礎(2)	体育(2)	保健(1)	英語コミュニケーションⅡ(4)	家庭基礎(2)	実習Ⅰ(6) *12	表現基礎Ⅱ(4) *4	探究Ⅱ(1)	HR(1)
----	----------	---------	---------	-------	--------	---------	---------	-------	-------	-----------------	---------	---------------	----------------	--------	-------

表現基礎Ⅱ

表現基礎Ⅰから発展させ、多様な表現や柔軟な発想力を培います。計画を立てたり、振り返る時間も重視し、プレゼンテーションやレポートを用いて自分の意図を言葉で伝えられる力も養います。「進路探索期間」には進路志望先に合わせた目標を設け、3年次に向けステップアップする課題に取り組みます。



コース
選択

アートパイオニアコース

前期	論理・国語(2)	古典探究(2)	地理総合(2)	体育(3)	国語演習Ⅱ(2)	公民演習・数学演習・国語演習Ⅱ(2)	数学演習・理科演習・英語演習Ⅱ(2)	英語演習Ⅱ(2)	英語コミュニケーションⅢ(4)	実習Ⅱ(8) *12	表現演習Ⅰ(5)	表現演習Ⅱ(4)	探究Ⅲ(2)	HR(1)
後期											表現演習Ⅰ(5)	表現演習Ⅱ(4)		

表現演習Ⅰ / Ⅱ*1

進学志望先別に生徒各自の進路に応じた課題を学習します。「表現基礎Ⅰ・Ⅱ」で培った基礎実技力をもとに、主体的かつ能動的に学ぶ態度を身につけ、大学入試の実技試験に対応できる実技力や応用力を養い、将来の制作や表現活動へとつながる力を身につけます。

大学入学共通テスト対策演習

共通テストに向けて、必要な科目の演習を選択し受講します。知識・技術を身につけ、それを用いた思考力・判断力・表現力を伸ばすことで、進路目標の実現を目指します。

実習 A/B

専攻実習の分野を越えた複数の実習講座から選択します。専門的な素材や技法を用い、その技術や表現の特質を学びます。



3年

アートフロンティアコース

前期	論理・国語(2)	古典探究(2)	地理総合(2)	体育(3)	英語コミュニケーションⅢ(4)	実習Ⅱ(8) *12	表現演習Ⅰ(5)	実習Ⅲ(8)	探究Ⅳ(2)	HR(1)
後期						実習Ⅲ(8)		実習Ⅳ(4)		

©掲載のカリキュラム(単位数)は、令和7年度実施分です。令和8年度には変更になる可能性があります。*1「造形表現」、「実習Ⅰ」、「実習Ⅱ」のうち1単位は「美術史」1単位を代替。 *2「実習Ⅰ」、「実習Ⅱ」のうち1単位は「美術概論」1単位を代替。「実習Ⅰ」、「実習Ⅱ」のうち1単位は「鑑賞研究」1単位を代替。

8つの専攻の学び

入学後、8つの専攻分野を体験しながら、1年次の終わりにひとつの専攻を選択し、そこからより深く専門的に学んでいきます。1年間で幅広い分野を学んだ経験は、将来どんな道に進んでも必ず活かす力となります。

造形表現

専攻
選択

専攻実習Ⅰ

コース
選択

専攻実習Ⅱ

AF
コース
のみ

専攻実習Ⅲ

2年次からの専攻を選択するための美術専門授業です。入学後、本校に設置している美術・工芸・デザインにわたる8つの専攻分野を、まずは体験的に学習。その後、学んだ分野の中からさらに絞り込んだ分野をより深く学び、1年次の終わりにひとつの専攻を選択します。

各専門分野での実習を通して、見方や考え方、表現方法の違いなどを知り、視野を広げます。



1年次に決定した専門分野(専攻)を本格的に学んでいきます。各専攻では1年間を通してその分野で必要となる考え方や表現の基本、自ら定めた目標に向けて試行錯誤しながら進む行動力、物事の観察や作品鑑賞の仕方などの基礎力を身につけ、3年次の各専攻での「実習Ⅱ」の学習に発展させます。



各専攻で2年次に学んだ思考力や表現力をより高めながらさらに追究することで、表現したい題材や表現方法を主体的に見つけ、試行錯誤を繰り返しながら制作に取り組みます。自己を見つめ直し探究する制作活動は、大きな成長につながります。

専攻実習は、将来の進むべき道の指針となり、生涯にわたって何事にも変え難い糧となります。その成果は10月の美工作品展で発表します。



アートフロンティアコースでは後期に各専攻での「実習Ⅱ」での取組をさらに発展させた作品制作を行います。1月には後期作品展を開催し、その成果を発表しています。



*3「表現基礎Ⅰ」のうち2単位は「美術Ⅰ」2単位を代替。 *4「表現基礎Ⅱ」のうち2単位は「素描」2単位を代替。「表現基礎Ⅱ」のうち2単位は「構成」2単位を代替。 ※1「表現演習Ⅱ」はアートパイオニアコースのみ履修。

Japanese 日本画

京都の日本画は写生・写実を重視し、描きたいものと真摯に向き合う「対話」を通して観察する力を高めます。日本画専攻では、対象と向き合いながら主体的に自らを成長させることのできる力の育成を目指しています。

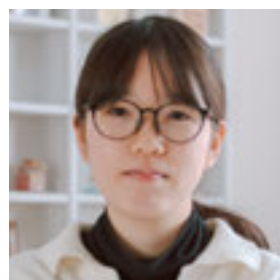


専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- ☐ 日本の風土を愛し、四季折々の変化を感じる発見力
- ☐ 対象を真摯に観察し、的確に表現する観察力とものづくり力

使用する主な画材等

岩絵具 / 水干絵具 / 胡粉 / 墨 / 雲肌麻紙 / 美濃紙 / 膠 など



専攻インタビュー

日本画専攻
3年生
Kei Yasue

日本画専攻では、対象をよく観察し、時には見る角度を変えたり触れたりしながら描くことを大切にしています。観察を重ねる内に、作品の中で一番伝えたいことは何かを意識するようになりました。卒業後も日本画を描き続け、自分が感じたことを的確に表現できる力を身につけたいと考えています。

風景写生

2年時、鴨川の風景を透明水彩で描いた作品。実際に現地に行き、寒さを感じながら描くことで、建物の遠近感やその場の空気感を作品に込めようとしました。特に力を入れたのは、水面に映る建物の影です。カラフルで美しいその映り込みを表現するために、細部の調整を重ねました。

また、この課題を通して、忍耐力や集中力が身についたと感じています。写生は決まった時間の中で描かなければならないので、集中力が必要です。絶対に時間内に終わらせる、決めたことは最後までやり切るという意識は勉強でも活かしています。



動物画（鶏）

専攻に入って初めての課題。実際に鶏を観察し、何度もクロッキーを描きながらポーズを決め、デッサン、水彩画を経て本制作に入りました。夏休みまでじっくりたくさんの時間を使って観察を続けました。

この課題では、色の使い方に特にこだわりました。羽の部分が角度によって紫や緑に見える美しさを表現したかったため、絵の具の使い分けに工夫をしました。単に形を描き写すのではなく、動き出しそうな生き物らしさを出すことを意識しました。



この課題を経て、自分が作りたいイメージに向けて、試行錯誤しながら作品を作り上げる力が身につきました。



Oil 洋画

洋画専攻では、描く対象・主題を丁寧に「見つめる」ことを大切に、油彩画やパステル画、エッチング（版画）など、様々な技法を用いて表現することで、現代をより広い視野で捉えるための力をつけることを目指しています。

専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- ☐ 常に自問自答しながら、自分なりの答えを導き出すものがたり力
- ☐ 観察を通して、ものの本質を見抜く観察力

使用する主な画材・技法等

油絵具 / 木炭 / コンテ / パステル / 銅版画（エッチング技法） / アクリル絵具 / 透明水彩絵具 など



専攻インタビュー

洋画専攻
3年生
Tenta Shirahama

洋画専攻ではモチーフやモデルをよく観察する機会が多く、そのおかげで「この人はどういう行動をするだろう？」などと気が付くことが増え、人や物との接し方に影響している気がします。将来は、洋画だけにこだわらず、例えばインスタレーションのような表現にも挑戦したいです。

鴨川

これは2年生になってすぐの課題で、学校の隣にある鴨川の好きな風景を選んで描くというものでした。川の細かい部分を突き詰めて描きたくて、川面や草の映り込みなどにこだわりました。特に水面の表現は、細かい色の違いを作るのが難しかったです。何度も色を調整して、やっと思い通りの色を出せた時はすごく嬉しかったです。また、天候や時間帯によって見え方が変わるので、午前と午後では同じ場所でも全然違う印象になったり、その変化を追いかけるのは体力的にも、集中力を維持するのも大変でした。でも、実際に現場に行って直接観察しながら描くという経験が、細かな変化にも注意する力になっていると思います。



校内風景

校内の風景を描く課題では、教室の廊下に奥から差し込む光と遠近法を意識し、奥行き感を表現することにこだわりました。そのために、建物の構造をしっかりと観察して、正確に線を引かなければいけなかったのが大変でした。自分はどちらかというと直感的に描きたいタイプなので計算しながら描くのは苦戦しました。

でも、この課題を通して、計画的に丁寧に作業することの大切さを学べました。例えば、下書きをしっかりと、角度や細部の精密さを意識することで、結果的に完成度の高い作品に仕上げることができました。こうした計画性は、普段の勉強にも応用できるものだと感じています。



Sculpture 彫刻

古代人は祈りの心を込めて岩肌に人間や動物などを彫り込みました。彫刻専攻では、立体的な造形力を身につけるのはもちろん、社会の営みの中で人々を支える「美術」とは何かを考える力を身につけます。

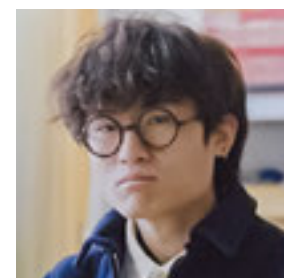


専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- ☐ 自分自身と空間、社会との関係性を深く見つめ、考える力
- ☐ 造形の魅力を感じ取り、自ら探究していく感性と行動力

使用する主な素材・機材等

粘土 / 木 / 石膏 / 水性樹脂（ジェスモナイト） / ノミ / ノコギリ / 木づち / 土練機 / シュロ縄 / ヘラ など



専攻インタビュー

彫刻専攻
令和6年度卒業生
Kirato Higuchi

彫刻専攻では、立体感覚や空間の使い方を磨きながら、木や粘土、石膏などさまざまな素材と向き合います。将来の夢は絵本作家になることです。立体感覚を活かして、絵本のキャラクターをフィギュアやカプセルトイにして、親子で一緒に楽しめる作品を作りたいと考えています。

木彫

木彫の課題では、一度削ったら戻せないという木という素材を、その特性を観察しながら慎重に作業する必要がありました。その上で、「見た人がどう感じるか」を意識し、自分が良いと思うだけでなく、作品の前で足を止めて見てもらえるよう工夫しました。

制作中は「なぜこの彫り方を選んだのか」「どうしてこの形にしたのか」と、制作の意図や形の意味を深く考えるようになり、工業製品ではない一つひとつ違う自然の素材と向き合い、観察力が向上したと思います。



自由課題

後期作品展では、粘土で形を作り樹脂に置き換える塑像（そぞう）の作品に取り組みました。今回は、色を塗って「絵本の中にあるような、柔らかく優しい雰囲気」を表現することを目指しました。しかし単に色を塗るだけではのっぺりしてしまい、理想の色合いを探すのに試行錯誤しました。アクリル絵具の塗り方や下地の工夫を何度も繰り返し、途中経過の写真を撮っては先生やクラスメイトに意見をもらいました。最終的に、硬い樹脂でも、ふわっと柔らかい印象を与える作品に仕上げることができました。



研ぎ出しパネル・バラ

色漆は乾燥すると変色するため、発色やグラデーションの調整が難しい課題でした。バラの美しさや鮮やかさ、立体感を表現することができるよう、イメージした色ができるまで何度も試行錯誤を重ねました。バラの花びら一枚一枚を丁寧に塗り重ねることに加え、失敗しても、漆が乾くまで時間がかかるので、根気強く作品と向き合わなければなりません。また、失敗してもそのままにしたり、あきらめたりせず、「成功するまで努力する」という意識が身につきました。



Lacquer Art 漆芸

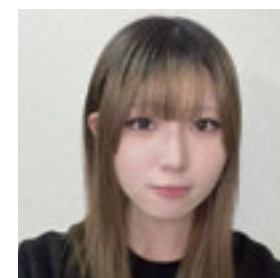
漆芸は、縄文時代から続く日本を象徴する工芸分野。漆芸専攻では色漆や金・銀粉、貝等の素材を使った伝統工芸としての技術や知識の習得を通して、未来へ漆芸を繋げると共に、生徒の豊かな感性を伸ばしています。

専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- ☐ 伝統を継承する中で革新を求め、進化を探究する行動力
- ☐ 社会との関係を見つめ、新しい工芸の価値観を構築する発想力

使用する主な素材・技法等

漆 / 金粉 / 銀粉 / 樹脂 / 螺鈿 / サフェイサー / エアブラシ / デジタル機器（3Dプリンター等） / 材木 / 蒔絵 など



専攻インタビュー

漆芸専攻
3年生
Mia Kojo

漆芸専攻では繊細な作業の積み重ねで、塗の厚みを均等にするなど、全ての工程が作品の完成度に直結するので、一つ一つの作業を大事にする集中力が身につきます。

将来は漆芸と小学校から続けている書道という日本の伝統文化を掛け合わせた作品を作りたいと思っています。

カップとソーサー

カップとソーサーの形の固定概念にとらわれてしまい、テーマを決めることに悩んだ課題です。先生からアドバイスをもらい、日常を違った視点で観察するようになりました。その中で信号機が目に入り、「カップの形にできるのでは？」とひらめきました。

また、この課題では3Dプリンターでモデルを作り、出力したものを研磨材で磨いていきます。下地を研磨



する丁寧さで作品の完成度が決まるため、より力をいれた部分です。

「固定概念にとらわれない発想」と「観察力を磨くこと」の大切さを学びました。

Ceramic Art

陶芸

陶芸専攻では、ロクロ・手びねり、絵付けなどの装飾実習、釉薬・焼成実習など、生活を豊かに彩る食器から大型の造形作品まで幅広い制作を通して、粘り強く物事に取り組み続けることのできる力を育みます。



専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- ☐ 自分が立てたゴールへ試行錯誤をしながら進める行動力
- ☐ 素材の性質を理解し、焼き物特有の美を探るものづくり力

使用する主な素材・機材等

電動ロクロ / 信楽土 / 各種釉薬 / 上絵具 / 下絵具 / 焼成窯 / スラプローラー など



専攻インタビュー

陶芸専攻
令和6年度卒業生
Nona Moriguchi

土の性質はさまざまで思い通りにいかないことが多いですが、そういった失敗から学ぶことの大切さや粘り強く表現を追求する姿勢を身につけられる場所です。また、仲間と協力して作業を行う場面が多く、協調性を学びました。将来は、人と素材に寄り添った陶磁器を作りたいです。

ティーカップ

2年生時に取り組んだ課題。初めて本格的なロクロ成形に触れ、その楽しさに感動しました。作品を作る際には自分が満足するためだけではなく「人に使ってもらう」「用途や実用性を考慮したデザイン」という視点を意識するようになりました。ものづくりを通して人と繋がる喜びを実感したことが今の制作に響いています。

また、ロクロによる成形は思い通りの形に仕上げるのが難しく、同じ形・同じ絵付けを繰り返す作業が大変ですが、粘り強く取り組む姿勢や我慢強さを身につけることができました。



自由課題

「表現の軸」を明確に持ち、試行錯誤を重ねながら理想の形を追求しました。大壺をロクロで挽く技術が難しく、時間の許す限り練習を続けました。高校生活で何度か経験した人生の大きな転換期をテーマに、内と外の対比を意識した作品づくりに取り組み、変化の瞬間を表現しました。

制作は単なる技術的な作業ではなく、感情や人生経験など、自分自身と向き合う大切な時間なのだと実感するきっかけとなりました。



Dyeing and Weaving

染織

染料で布に色彩豊かな絵柄を表現する「染め」と、様々な質感を持つ糸を組合わせ布そのものをつくる「織り」を学びます。手仕事を通して伝統的な染織の技法、繊維や染料の知識を学びながら、深く思考し造形する力を育てます。

専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- ☐ 多様な工程の全体像を把握し、計画的・主体的に取り組む行動力
- ☐ テーマや条件を正確に理解し、独自のアイデアを生み出す発想力

使用する主な素材・技法等

綿 / 絹 / 羊毛 / 化学繊維 / 化学染料 / 植物染料 / ろうけつ染 / 型染 / 捺染 / 絞り染 / 藍染 / シルクスクリーン / 綴織 / 平織 など



専攻インタビュー

染織専攻
令和6年度卒業生
Miku Kishimoto

染織専攻では、素材に合わせて技法や表現方法を工夫し、自分の強みを発見できる環境があります。制作を通して、計画性や効率的な進め方を学びました。大学では染織だけでなくガラス工芸について学び、素材の魅力を活かしたものづくりに挑戦していきたいと考えています。

自由課題

自分が好きなものを一目で伝えられる作品にしたいと考えて取り組みました。龍は小さい頃から好きなモチーフで、神々しさやカッコいい姿・形に魅力を感じています。その中でも特に鱗を表現したかったので、一枚一枚丁寧に描きました。縦1m、横3mの大きな作品だったので、素材選びや技法の工夫が必要で、何度も実験を重ねました。作業量が多く、先が見えなくて不安になることもありましたが、自分を奮い立たせて乗り越えました。



鴨川と私

「鴨川と私」というテーマで制作した課題。色相や明度を意識した染料作りに苦戦しながらも、多くの試行錯誤を重ねたことで狙った色を出せるようになり色作りに自信を持つことができました。大きな布を効率よく染める工夫や、普段使わない色への挑戦も良い経験になり、作品に愛情を込めることで達成感を得られ、気持ちを込めて取り組むことの大切さを学びました。



デザイン

イラストレーションや写真、アニメーション、実写映像、立体造形といった様々な表現手法を用いて課題を解決する「デザイン思考」の学びを通して、社会をより良く変革する力を身につけます。



ファッションアート

ファッションアート専攻では、衣服制作のための縫製や製図図法はもちろん、一般的な服地以外の素材研究から空間演出まで、様々な領域に自身の考えを展開・表現する力を養っています。

専攻のポリシー(特に育成を目指す資質・能力)	使用する主な画材・機材等
☐ 仮説を立案し、試行錯誤しながら物事を考える論理的思考力 ☐ スケジュール管理や交渉等、必要な段取りを調整する行動力	iMac / Adobe Illustrator, Photoshop, Premiere, After Effects / 3Dプリンター / デジタルミラーレスカメラ / 大判プリンター など

専攻のポリシー(特に育成を目指す資質・能力)	使用する主な素材・機材等
☐ 学んだ基礎知識・技術を用い、テーマに沿って表現するものづくり力 ☐ 課題に対して自分なりに考え、試行錯誤し解決を目指す行動力	縫製用具 / 各種布 / 染料 / フェルト / ロックミシン / 刺繍ミシン / アイロン / シルクスクリーン機材 / 大判プリンター など



専攻インタビュー
デザイン専攻
3年生
Echo Shimpo

デザイン専攻では、課題を通じて問題解決の考え方やスケジュール管理能力を養います。試行錯誤のプロセスや計画力も身につき、他分野でも役立っています。課題に対して悩み過ぎず、「まずやってみる姿勢」が、自信と成長につながりました。将来は音楽と映像を組み合わせた創作活動をしたいと考えています。

ハイパーリアルイラストレーション

この課題では自分で神社に許可を取って取材し、情報収集を行いました。自分でアポを取ったり取材したりすることが初めてだったので緊張しましたが、勇気を出して行動したことで、相手の理解や共感を得られ、自信につながりました。また、この課題まで、大きなボードに細かく描いたことがなかったので、新しい技術を習得する機会になりました。

課題を通して得られるものは技術だけではなく、社会性や責任感もあるのだと分かりました。



立体イラストレーション

リングに変化を加えて面白い作品を作るというテーマの課題です。「リング」に「浜遊び」をかけて、「季節の終わリング」という作品を制作しました。もともとアイデアを出すことに苦手意識を感じていましたが、小さなことでもいいのでとにかくアイデアをたくさん出して、その中から選んでいくといった機械的な方法を学んだことで、アイデア出しへの恐怖心がなくなりました。

また、他の課題と同時並行で進めていく中で、締切までに仕上げるスケジュール管理能力の大切さを学びました。



専攻インタビュー
ファッションアート専攻
3年生
Makoto Nishimoto

専攻では、洋服の基本的な制作技術に加えて、アート表現やテキスタイルなどについても学ぶことができます。計算や計画性、立体構成力が重要であることを実感しました。将来は舞台衣装の制作や、自分のブランドでコレクションを発表するなど、華やかで特別な服づくりに挑戦していきたいです。

ワンピース

2年生時に取り組んだワンピース制作は、本格的な服作りの第一歩でした。基本的なパターンからラインのつながりや素材選びにこだわり、スカート部分では複雑な形に挑戦しました。テーマは「自然」で、私は花が咲く瞬間の生命力や幸福感を表現しました。この課題で特に学んだのは、計画的に作業を進めることの大切さです。完成度を高めるには、制作の流れを事前にしっかり考える必要があります。途中でデザインを変更したくなくても、時間の制約で実現できないことがあったと分かりました。失敗や試行錯誤を繰り返して、自分の成長を感じられる貴重な経験になりました。



ベスト

1年生時に初めて服の形に挑戦した課題。紙で立体を作る練習をし、鞆制作を経て、ようやく布を使った服作りに取り組みました。課題では、自分の好きな絵画を参考にデザインし、フェルトなどの扱いづらい素材にも挑戦しました。

「休日」をテーマにして、全体的に明るくリラックスした印象になるように、色のバランスの調整や刺繍や装飾にも挑戦しました。

ファッションはきらきらしたイメージがあったのですが、実際は細かい手作業や地道な工程の積み重ねが重要であることに気づきました。



1年間 年間行事



* 令和7年4月時点予定

よくあるQ & Aを、本校ホームページに掲載しています。ご覧ください。



美工は芸術家になるための勉強をするところですか？ 登校時の服装は自由ですか？
 アルバイトはできますか？ 部活動はありますか？ 自転車通学は可能ですか？
 実技検査の対策のために、画塾に通う必要はありますか？ 大学への推薦はありますか？

入学希望の中学生のみなさんへ

アドミッション・ポリシー(入学者の受入れに関する方針)

- ◆美術工芸に対する興味・関心と基礎的な資質・能力を有し、その資質・能力を伸ばそうとする生徒
- ◆自ら課題を見出し、他者と協働しながら粘り強く解決しようとする生徒
- ◆将来、本校での学習を通して培った力を発揮し、様々な分野で社会に関わろうとする生徒

入学者選抜について【令和7年度実績】 ※令和8年度入学者選抜については、9月に公表予定です。

◆選抜方式は、京都市・乙訓地域公立高校「前期選抜」C方式です。検査内容は実技検査と学力検査、面接で、これに中学校からの報告書を加えて選抜し、定員の100%を決定します。

中学校からの報告書(135点)

- ◆中学校3年間の報告書が加わります。

実技検査:鉛筆デッサン(150点)・イメージ表現(135点)

◆「鉛筆デッサン」では、基本的な色や形、ものの大きさの違い、適切な構図により、立体感と固有色の表現ができるかがポイントで、基本的な形体のモチーフを出題。

◆「イメージ表現」では、モチーフと「言葉」の組合せから自由に発想し、その世界をイメージ豊かに表すとともに、そのイメージに基づいた画面構成を工夫し、美しい色彩で表現できるかがポイントです。

過去4年間の出題

鉛筆デッサン 120分／四つ切り画用紙		
R4年度	フタ付ケース・カボチャ4分の1	
R5年度	ウェットティッシュケース・たわし	
R6年度	ラップケース・赤玉ねぎ	
R7年度	りんご・食品用紙箱（フタ付）	
イメージ表現 120分／八つ切り画用紙／モチーフ1点と「言葉」を出題		
R4年度	モチーフ：手さげ紙袋	言葉：冒険
R5年度	モチーフ：しいたけ	言葉：喜び
R6年度	モチーフ：鏡（丸型）	言葉：明暗
R7年度	モチーフ：ポリエステルロープ	言葉：時間

学費について

諸経費は各期ごとに納めていただきます。諸経費には、生徒会費、PTA会費、模擬試験費用等が含まれます。1年次の実習関係費は諸費に含まれていますが、2・3年次には各専攻分野ごとに実習費(金額は分野によって異なります)がかかります。また、絵の具などは制作に応じて個人負担です。iPadを活用した授業を行うため、各家庭でiPadを準備いただきます。授業料については親権者(父・母など)算定基準額に応じて「高等学校等就学支援金」または「高校生等臨時支援金(仮称)」の対象となり、授業料の納入が不要となる予定です。また、京都ロータリークラブ奨学金・交通通児奨学金などの奨学金制度もあります。

	入学金	諸費・会費5月納入	諸費・会費9月納入	美術研修旅行代金	授業料	専攻分野等実習費
1年次	5,650	41,150	8,000	70,000~80,000	118,800	20,000~40,000
2年次	—	36,290	9,700	—	118,800	40,000~60,000
3年次	—	27,190	14,700	—	118,800	50,000~70,000
アートフロンティア アートバイオニア		42,690	31,480			

*いずれも年間経費(令和7年度時点)であり、変更になる場合があります。 *美術研修旅行代金は旅行代理店に直接納入いただきます。

校歌

一、鴨川の瀬音さやけきバルコニー

明日への夢を語り合う

我らが美工に満ちるのは

色とりどりの花開く

自由な息吹の伸びやかさ

自ら選んだこの道を

夢を描いて歩んでいこう

二、たおやかな峯を東に見上げては

輝く未来に思いを馳せる

美工の我らが目指すのは

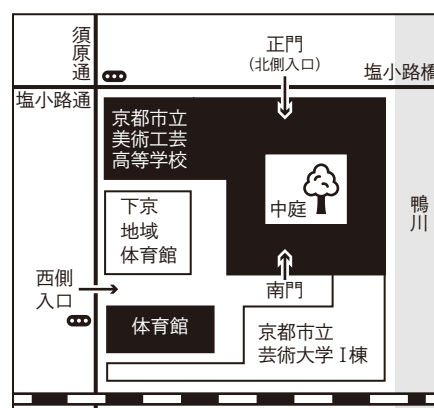
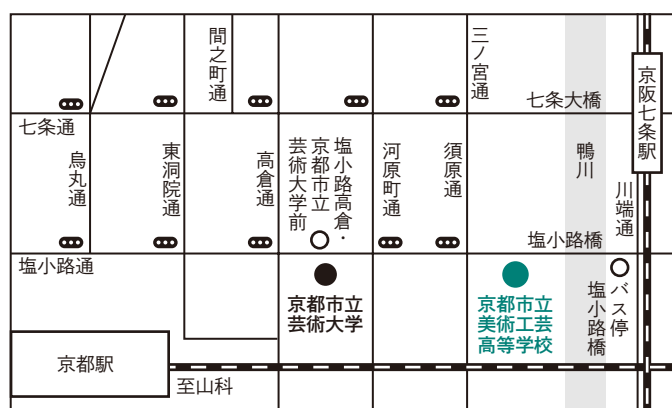
明日の世界を切り拓く

創造力のしなやかさ

心に決めたこの道を

夢を抱いて歩んでいこう

Youtubeにて
動画配信中



〒600-8202 京都府京都市下京区川端町15番地

京都駅から徒歩約15分 / 京阪七条駅から徒歩約10分

バス停 塩小路橋から徒歩約2分 / バス停 塩小路高倉・京都市立芸術大学前から徒歩約3分

TEL:075-585-4666 FAX:075-341-7006

 京都市立美術工芸高等学校

学校ホームページ

